

只見中生作製SDGsバッジ

県造園建設業協に

民報社・第1弾 企業・団体の活動推進

福島民報社は、国連が採択した持続可能な開発目標（SDGs）の達成を目指す県内の企業・団体に只見町の只見中生が作製した木製SDGsバッジを贈呈する。第一弾として二十日、環境美化活動に取り組んでいる県造園建設業協会に五十一個を届けた。



木製SDGsバッジは只見町産のフナの間伐材を活用している。三年生四十一人が色鉛筆で着色し、コーティングスプレーや接着材を使って仕上げた。

福島市上鳥渡の協会事務所で行った。福島民報社の吉田順生広告局長兼営業部長が、只見中生が新聞紙を素材に作ったレシ袋にバッジを詰め、佐久間洋会長に手渡した。佐久間会長は「国内の森林は間伐が必要

で、バッジの材料に間伐材を使っていることは素晴らしい。只見中「だろう」と感謝した。



吉田次長（右）からバッジを受け取る佐久間会長。左から相良、皆川の両副会長

相良政博、皆川勝治の両副会長が同席した。

福島民報社は、SDGs達成に向けた世論を喚起するために国連が設けた「SDGメディア・コンパクト」に県内のマスコミで唯一、加盟している。環境保全に向けた只見中の取り組みを知ってもらい、SDGs達成に向けた機運を高めるため、バッジの贈呈を続ける。



只見中の3年生が作製した木製SDGsバッジ